

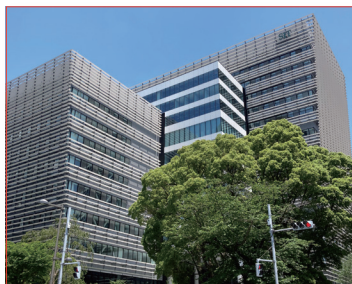


全国私立大学 FD連携フォーラム

News Letter No.20

C O N T E N T S

P.2	ご挨拶
P.3	加盟校一覧／ 2024年度取組概要
P.4-5	2024年度前半期活動報告 (総会・シンポジウム)
P.6	2024年度後半期活動報告 (懇談会企画／幹事校・会員校ミーティング)
P.7	入会のご案内／実践的FDプログラムのご案内



▶ 代表幹事校・地域担当幹事校【東日本担当】 芝浦工業大学

拠点との連携のすすめ

芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター長 教授
榎原 暢久



皆さんは「教育関係共同利用拠点」をご存知でしょうか。大学の（教）職員の組織的な研修等の実施機関として文部科学省から認定を受けた拠点が、2024年12月現在で全国に14か所あります。本学・教育イノベーション推進センターは、理工学教育のモデル構築とその基本的な枠組みおよび教育手法を国内に浸透させる拠点として、2016年より「理工学教育共同利用拠点」に認定されています。

本拠点ではこれまでの9年間、日本全国の教員・職員・非常勤講師・ポスドク・院生の方々を対象に、WS型研修を中心とした能力開発の機会を提供してきました。日本の大学に在籍する学生の8割近くが私立大学の学生で、多くの教職員がその教育研究に携わっている一方、これらの機関で、教職員の能力開発を専門に担うスタッフは多くありません。教職員の組織的な研修等の実施機関として認定されている「教育

関係共同利用拠点」等と連携をとることで、今までなかった能力開発の機会を提供することができます。

本学拠点でも、同じく拠点校である愛媛大学や、FDの専門家集団である日本高等教育開発協会と共催の形をとりながら、「ファカルティ・デベロPPER養成講座」や「カリキュラム・コーディネーター養成講座」といった研修を提供しています。これらは、カリキュラムの整合性整備や学修成果の可視化といったカリキュラムレベルのFDについて、各機関でニーズが高まってきていることにこたえるものです。

国内外のFD資源が多様になり、JPFFが発足して18年目になる2025年度は、JPFFの組織の在り方や活動を再検討する年となりそうです。JPFF加盟校にとって、より良い選択ができるよう寄与していければと考えています。



▶ 地域担当幹事校【西日本担当】 関西学院大学

今後の高等教育の在り方に向けて

関西学院大学 高等教育推進センター長 教授
小谷 正登



関西学院大学は、2008年のJPFF発足時より加盟し、幹事校を務めてまいりました。そして現在、西日本地域の幹事校を担当しております。さて、JPFFの設立目的として、「全国の中規模以上の私立大学が連携してFD（ファカルティ・ディベロップメント）を推進することにより、日本の新しい『高等教育の質保証』標準を目指す」と定められています。本学のFDの歴史は長く、1992年に総合教育研究室で実施されたことが最初です。その後、2002年度に教務委員会の下にFD部会が設置され、全学一斉の授業評価を行うようになりました（2023年度より本センターの下に同部会を設置）。そして、JPFFに加盟しFD活動を推進し現在に至っています。また、本学創立150周年となる2039年を見据えて策定された「超長期ビジョン」と、それを実現するための前半10年間2018-2027）の方向性を示す「長期戦略」からなる「Kwansei Grand Challenge 2039」の中にも、以上の流れを受け、FDを推進するための計画を示しています。なお現行の学習指導要領では、小中高等学校において「個別最適な学び」と「協

働的な学び」の一体的な充実が求められ、教育・学習内容のみならず教育・学習方法も示されています。そして、GIGAスクール構想のもとICT教育を踏まえた探究学習が実施され、新しい学習者が生まれています。一方、ここ10数年間で大学生において、学修方法、学生生活の在り方、さらに保護者との関係において主体性が低下していると言われ、若年層の姿が変化しています。加えて、急激な少子化の中、2022年の大学入学定員の総数約64万人が、2040年には大学入学者数が約51万人に減少するという試算がある中、転換期にある国際交流、研究力低下への指摘など、近年の社会を取り巻く様々な変化を見据えた高等教育の在り方が問われています。

このような状況のもと、ご負担を増やすこととなりますが、JPFF加盟校が各校におけるFD等の取り組み事例や課題の共有を通じて新たな知見をさらに交換するとともに、各校間の連携を深化させることで、現在および将来の高等教育全体に求められています課題にこたえていけることを願っています。

加盟校一覧

代表幹事校		芝浦工業大学		
地域担当幹事校		芝浦工業大学【東日本担当】		関西学院大学【西日本担当】
会 員 校	幹 事 校	関西大学	関西学院大学	芝浦工業大学
		創価大学	中央大学	中部大学
		同志社大学	法政大学	明治大学
		立教大学	立命館大学	龍谷大学
		早稲田大学		
	会 員 校	愛知大学	青山学院大学	学習院大学
		神奈川大学	関東学院大学	北里大学
		九州産業大学	京都産業大学	甲南大学
		神戸学院大学	國學院大學	国土舘大学
		上智大学	専修大学	中京大学
		帝京大学	東京農業大学	東北学院大学
		東洋大学	南山大学	日本大学
		福岡大学	武庫川女子大学	名城大学
		明星大学		

50音順、全38大学（2025年3月現在）

2024年度 取組概要

2024年度 第1回幹事会

日 時：2024年6月15日(土)12:00～13:00
場 所：龍谷大学 深草キャンパス 22号館 102教室

2024年度 総会・シンポジウム

日 時：2024年6月15日(土)13:00～16:40
場 所：龍谷大学 深草キャンパス 22号館 102教室
(総会)・101教室(シンポジウム)
シンポジウムは大学教育イノベーション日本
(HEIJ)との共催、およびオンライン併用のハイ
ブリッド開催

◆2024年度シンポジウム

テーマ：「学修者本位の教育の実現
ー学生参画の観点からー」

◆講演Ⅰ

筑波大学 教学マネジメント室 准教授 田中 正弘 先生

◆講演Ⅱ

愛知東邦大学 教育学部 子ども発達学科 准教授 武 寛子 先生

◆事例報告

◆報告Ⅰ

成城大学 教育イノベーションセンター 主任 肥田 奈緒子 氏

◆報告Ⅱ

龍谷大学 学生部 課長 石原 芳典 氏

◆登壇者への質問

筑波大学 教学マネジメント室 准教授 田中 正弘 先生

愛知東邦大学 教育学部 子ども発達学科 准教授 武 寛子 先生
成城大学 教育イノベーションセンター 主任 肥田 奈緒子 氏
龍谷大学 学生部 課長 石原 芳典 氏
龍谷大学大学院 文学研究科 博士後期課程 東野 空 氏
司会：龍谷大学 学修支援・教育開発センター長／
文学部 教授 出羽 孝行 先生

2024年度 代表幹事校ミーティング

日 時：2024年10月3日(木)10:00～11:30
形 式：オンライン

2024年度 幹事校・会員校ミーティング

日 時：2025年1月22日(水)13:00～14:30
形 式：オンライン

2024年度 懇談会企画

日 時：2025年1月22日(水)14:40～16:50
形 式：オンライン
テーマ①自大学で実践しているFD、これから実施できそ
うなFD、JPFFに実施してほしいこと
②各大学のFD活動における実践的FDプログラムの
利用可能性

2024年度 第2回幹事会

日 時：2025年2月19日(水)～26日(水)12:00
形 式：Eメールによる審議

総会・シンポジウムを振り返って

龍谷大学

学修支援・教育開発センター長 出羽 孝行

2024年度の全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）総会ならびにシンポジウムが、2024年6月15日（土）に龍谷大学深草キャンパスにて開催されました。

今年度の総会は、昨年度に引き続き対面形式で行いました。なお、シンポジウムは大学教育イノベーション日本（HEIJ）との共催とし、オンラインも交えたハイブリッド形式にて実施いたしました。

総会では、代表幹事校として出羽が司会を担当し、2023年度の活動・決算報告を行いました。その後、2024年度から代表幹事校を引き継がれる芝浦工業大学教育イノベーション課の小倉佑介課長から、2024年度の活動計画とその概要、年間スケジュールおよび予算等についてご提案いただき、審議の結果、提案のとおり承認されました。また、2024年度及び2025年度の体制を担われる、代表幹事校・東日本地域担当幹事校の芝浦工業大学教育イノベーション推進センター センター長の榊原暢久教授と、西日本地域担当幹事校の関西学院大学高等教育推進センター センター長の小谷正登教授にご挨拶をいただきました。

総会に引き続き、「学修者本位の教育の実現—学生参画の観点から—」と題したシンポジウムを開催しました。

中央教育審議会の答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」には、教員中心から学生中心の高等教育機関に転換していくことが示されており、学修者を起点にして大学の質保証を担保していくことが重要とされています。近年、日本でも欧米の学生参画の概念が注目されていますが、政策対応にとどまり、制度として十分根付いていない現状があります。一方で、学生のピアサポートや自治組織を活用した取り組みを実施している大学があります。

本シンポジウムでは、こうした各大学の取り組みを学生参画という観点から整理・検証すると共に、新たに学生参画の仕組みを導入する大学においても、自身の大学に見合った取り組みを模索していくことで、学修者本位の大学教育を実現することに繋げていくことを目指しました。

まず、筑波大学の田中正弘准教授に「日本の大学における学生参画の現状と今後の可能性—学生参画の意義に着目して—」と題してご講演いただきました。

教員は「授業をより良くするために日々改善に努めている。」と思っているものの、学生は「理解できない。教員の教え方に問題がある。」と思っているなど、教員と学生の間に乖離があり、その乖離を解消するために、教員、職員、学生の三者が協働することの必要性をご説明いただきました。講演の後、学生参画はなぜ必要なのか、その意義を考えるために、対面参加者によるグループディスカッションが行われ、現状と今後の可能性について活発な議論が交わ

されました。

続いて、愛知東邦大学の武寛子准教授から「スウェーデンの大学における学生参画の歴史と学生の評価リテラシー—学生参画を支える基盤—」と題してご講演いただきました。

スウェーデンでは、議論する際にあえて反対意見を入れて合意形成していくという「参加民主主義」の考え方があるとのこと。そのため、ボローニャ・プロセスにおいて、内部質保証への学生参画が重視され、質保証への学生参加を促進した際も、参加民主主義をモデルに進めることができたとのこと。

スウェーデンの仕組みをそのまま日本で活用できるわけではないものの、学生の視点を重視した内部質保証に活かせる取組をご紹介いただきました。

さらに、成城大学の肥田奈緒子氏から「教職学協働の学びのコミュニティー—学生の声を活かす成城大学のピアサポート活動—」と題して、成城大学での具体的なピアサポート活動の実践例をご報告いただきました。

最後に、龍谷大学 学生部課長の石原芳典氏から「学生と教職員との協議機関『全学協議会』について」と題した事例を報告いただきました。龍谷大学における全学協議会の活動内容とその意義が紹介されるとともに、全学協議会に学生代表として参加した学生からも実体験を基にした報告がありました。

これらの発表を通じて単に大学側のエビデンスの材料として学生を「利用」するのではなく、学生が大学運営に「参画」することで学びの質の向上に繋がるということが明らかになり、教育の質向上における学生参画の重要性を再認識する貴重な機会となりました。

そしてシンポジウムの締めくくりとして、2024年度代表幹事校である芝浦工業大学の榊原教授から閉会の挨拶があり、シンポジウムを盛会のうちに終えることができました。

今回のシンポジウムには、対面・オンラインのハイブリッド開催により加盟校38大学をはじめ、HEIJ会員校・団体等



から118名の方々にご参加いただきました。昨年度に引き続き多くの方にご参加いただき感謝申し上げます。

最後に、田中先生、武先生、肥田様、石原様、龍谷大学大学院生の東野様におかれましてはご多忙のなかにもかかわらず、ご講演・ご報告をお引き受けいただきましたことにあらためて御礼申し上げます。今回のシンポジウムが、

皆様の大学における学生参画の推進や学びの質向上に寄与する機会となれば幸いです。

そして、17年目となる本フォーラムがより連携を深め、学生を主体的学習者に育て、私立大学の教育の質を保証し、高等教育全体の発展に寄与していくことを期待しております。



シンポジウム次第

◆ 開会挨拶

大門 弘幸 氏（龍谷大学 副学長／農学部 教授）

◆ 講演Ⅰ

「日本の大学における学生参画の現状と今後の可能性 ―学生参画の意義に着目して―」

田中 正弘 氏（筑波大学 教学マネジメント室 准教授）

◆ 講演Ⅱ

「スウェーデンの大学における学生参画の歴史と学生の評価リテラシー ―学生参画を支える基盤―」

武 寛子 氏（愛知東邦大学 教育学部 子ども発達学科 准教授）

◆ 事例報告Ⅰ

成城大学「教職学協働の学びのコミュニティ ―学生の声を活かす成城大学のピアサポート活動―」

肥田 奈緒子 氏（成城大学 教育イノベーションセンター 主任）

◆ 事例報告Ⅱ

龍谷大学「学生と教職員との協議機関『全学協議会』について」

石原 芳典 氏（龍谷大学 学生部 課長）

◆ 登壇者への質疑応答

登壇者：田中 正弘 氏（筑波大学 教学マネジメント室 准教授）

武 寛子 氏（愛知東邦大学 教育学部 子ども発達学科 准教授）

肥田 奈緒子 氏（成城大学 教育イノベーションセンター 主任）

石原 芳典 氏（龍谷大学 学生部 課長）

東野 空 氏（龍谷大学大学院 文学研究科 博士後期課程）

司 会：出羽 孝行（龍谷大学 学修支援・教育開発センター長／文学部 教授）

◆ 閉会挨拶

榊原 暢久（芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター長 教授）

◆ 司会

出羽 孝行（龍谷大学 学修支援・教育開発センター長／文学部 教授）

2024年度懇談会企画 開催

JPF代表幹事校・地域担当幹事校（芝浦工業大学・関西学院大学）

2025年1月22日（水）、JPF加盟校から43名が参加し、第14回懇談会がオンラインで開催されました。この懇談会は、各大学におけるFD活動の取り組みの改善・発展の一助とすることを目的としています。2024年11月18日付で実施した「全国私立大学FD連携フォーラムに関する今後の在り方について」のアンケート結果を踏まえ、次年度以降のJPFの活動内容を見直すため、「各大学のFD活動を再評価する」及び「立命館大学実践的FDプログラムの現状と今後の展開について」の2つについて、情報提供しました。その後、情報提供に関連した「①自大学で実施しているFD、これから実施できそうなFD、JPFに実施してほしいこと」、「②各大学のFD活動における実践的FDプログラムの利用可能性」の2つのテーマについて、3-4名の小グループでグループディスカッションを実施しました。

【実施概要】

日 時：2025年1月22日（水）14：40～16：50

実施方法：オンライン開催

【グループディスカッションのまとめ】

テーマ①：自大学で実施しているFD、これから実施できそうなFD、JPFに実施してほしいこと

新型コロナウイルスの感染拡大を契機として、オンラインを活用したFD研修が急速に普及しました。この流れを踏まえ、JPFでは、加盟校におけるFD活動の振り返りと、2008年に発足した本フォーラムの活動内容の見直しを行い、より意義

深い取り組みを提供することを目指したテーマを設定しました。

テーマ①に関するグループディスカッションでは、各校の実践事例や今後の展望、フォーラムへの期待が多岐にわたる形で示されました。特に、新型コロナウイルスの感染拡大以降の教育環境の変化に対応したFD活動が、各大学で積極的に進められていることが印象的です。また、加盟校が相互に情報を共有し、連携を深めることで、JPFの活動がさらに実りあるものになることが期待されます。

テーマ②：各大学のFD活動における実践的FDプログラムの利用可能性

現在会員校の多くが利用している立命館大学による実践的FDプログラムについて、運営コストの増大など課題が挙がりました。これらの課題の解決方法や、実践的FDプログラムをどのように利用できるかを再調査するため、本テーマを設定しました。

テーマ②に関するグループディスカッションでは、会員校におけるブレFDプログラムや新任教員研修に活用しているケースや今後自大学で上述した活用方法を取り入れたいといった意見が多くみられました。また、英語でのプログラム開講への期待に加えて、プログラム修了者へマイクログレデンシャルを発行するなど受講者が効果を実感できるシステム整備に関する意見もあがりました。

幹事校・会員校ミーティング報告

1. 2025年度JPF事務局業務の外部委託について

昨年11月18日付で実施した「全国私立大学FD連携フォーラムに関する今後の在り方について」のアンケート結果によると、多くの大学がシンポジウムや大学間での情報交換など一部活動の継続を希望していることが明らかになりました。また、事務局業務については、外部委託を廃止した場合、幹事校および加盟校の負担が増大することへの懸念が示されていました。これらの結果を踏まえて、2025年度のJPF事務局業務について、新たな外部委託先を選定の上、新規委託先との契約の可否について、メール審議にて進める旨、提案がありました。委託先機関が早期に見つかった場合は、メディア総研株式会社様との引継ぎ期間を設けたく、今年度については、1か月早めて2025年3月から新規委託先との契約を開始することも検討していることについて、説明がありました。

2. JPF活動内容の見直し案

「全国私立大学FD連携フォーラムに関する今後の在り方について」

のアンケートにあがった多くの会員校の意見である「シンポジウムや大学間での情報交換など一部活動の継続」をうけて、恒常的に実施する行事は「総会・シンポジウム・懇親会」の1回とする旨、提案がありました。

3. 2025年度総会・シンポジウム 開催日程について

2025年度の総会・シンポジウムを2025年6月14日（土）13：00より芝浦工業大学 豊洲校舎で開催することが報告されました。なお総会に先立ち、幹事会を12：00より開催する予定です。実施形態は2024年度と同様に対面を基本としながら、シンポジウムの一部をハイブリッド形式で配信し、詳細は3月末日までに改めて通知する旨、説明がありました。

4. 2025年度 実践的FDプログラム オンデマンド講義サービスの運用について

実践的FDプログラム オンデマンド講義サービスの運用や申し込み方法について説明がありました。

入会のご案内



全国私立大学FD連携フォーラムは、全国の中規模以上(学生数8,000名以上)の私立大学が連携し、全国の高等教育の質の向上を目指し、活動しています。本フォーラムでは、高等教育の質の向上に資するため、加盟校間での情報共有や意見交換を促進しています。

ウェブサイトでは取り組みの概要や、加盟校のFD活動についてご紹介しております。詳しくは下記ページをご覧ください。

URL: <http://www.fd-forum.org/fd-forum/>

入会を希望される場合には、ウェブサイト「入会のご案内」から「入会届」をダウンロードの上、事務局まで郵送、メール、FAXのいずれかでお送りください。

※フォーラム運営に係る費用は、会員校の年会費で賄っております。

(年会費:5万円(2025年3月現在))

※入会に関するご質問がございましたら、事務局までお問い合わせください。

実践的FDプログラムのご案内

実践的FDプログラムとは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、態度、特にアクティブラーニングを実践する能力を修得する研修プログラムです。

本プログラムは、大学教員の教育・研究に関するアカデミック・プラクティスに対して、

- ① 教育学をはじめとした系統的な理論のオンデマンド講義
- ② 授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ
- ③ 個々の教員ニーズに応える日常的な教育コンサルテーション

から構成されています。

私立大学には、クラス規模の大きさ、教員の持ちコマ数の多さ、学生の学力と学習意欲の多様性など、多くの困難な教育条件が存在します。たとえば、各大学では、新任教員研修において本プログラムを利用することを通して、大学教員に求められる教育力量と職能を育成し、大学教育の質を保証することが可能となります。

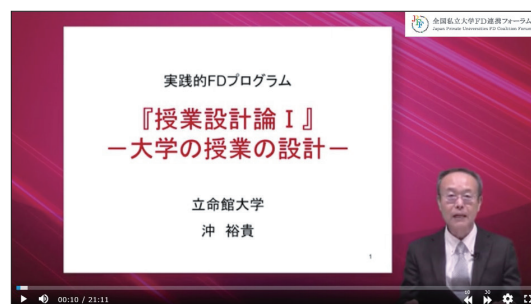
各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義(オンデマンド)や講座(ワークショップ)等を選択し、様々なプログラムを作ることが出来ます。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

JPPF会員校

http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd_application.html

JPPF非会員校

http://www.ritsumeai.ac.jp/itl/assets/file/campus/vod_annai_hikameiko.pdf



利用申込について

利用期間は最長1年間(当該年度内)となります。【上半期受付期間】2月1日～4月30日 【下半期受付期間】9月1日～9月30日
上記のウェブサイトより「利用申込書/受講者情報登録用紙」をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、ウェブサイトに記載の提出BOXへアップロードを行ってください。

受付

立命館大学 (事務局: 教育・学修支援センター 担当部署: 教学推進課)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL: 075-465-8304 FAX: 075-465-8198 e-mail: fd71cer@st.ritsumeai.ac.jp

全国私立大学FD連携フォーラム事務局

メディア総研株式会社 〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1-9F TEL: 03-6206-3030 FAX: 03-6435-0801 e-mail: jpff@mda.ne.jp

発行日: 2025(令和7)年3月